

チョコレートケーキ作りに挑戦

山上公民館



山上公民館「お菓子作り教室」は2月7日、同公民館で開催され、市民7人が参加しました。

講師に楠木喜美恵さんを迎え、チョコレートと発酵バターをたっぷり使ったチョコレートパウンドケーキを作りました。

参加者らは、講師から作り方のコツや焼き具合などの指導を受け、しつとりしたケーキに仕上げる方法を熱心に学んでいました。

ひなまつりの工作に挑戦

中央公民館子ども教室

中央公民館子ども教室「ひなまつり工作」は2月23日、同公民館で開催され、市内の小学生ら19人が参加しました。当日は、同館職員から説明を受けた後、折り紙の使い方などを工夫しながら、ティッシュ箱やトイレットペーパーの芯を使ったひな飾りを作りました。



参加した子どもたちは、一生懸命に作ったひな飾りを互いに見比べながら、一足早いひな祭りを楽しみました。

宇多川にサケの稚魚を放流

山上小



サケ稚魚の放流会は2月22日、宇多川河川敷で行われ、山上小学校の児童21人が参加しました。

当日は、バケツに移した1,000匹の稚魚が宇多川に放流され、参加した児童らは放流した稚魚が元気に川を下っていく姿を喜び、県職員の講話でサケの生態への理解を深めました。

放流されたサケはオホーツク海やベーリング海を海遊した後、4年後に宇多川に戻ります。

子どもの意欲を引き出す指導方法を 研究 市教育研究会

令和4年度市教職員研究作品発表表彰式は2月13日、市民会館で開催されました。

作品は、教育研究論文、教育実践記録など4つの分類があり、個人または団体が分類とテーマを決めて出品。

表彰式で、福地憲司教育長は「研究の成果を子どもたちの教育に生かしてください」と述べ、特選6作品と奨励賞10作品の代表者に表彰状を手渡しました。



防災マップで文部科学大臣賞

みつばち防災探検隊

川原町児童センターの放課後児童クラブみつばちクラブに通う児童で構成されたみつばち防災探検隊は2月27日、同児童センターで第19回小学生のぼうさい探検隊マップコンクールで文部科学大臣賞を受賞したことを報告しました。制作されたマップは、児童らが実際に白杖体験を行った上で目の不自由な人の立場でマップ制作したことなどが評価され、今回の受賞となりました。



春の訪れを味わう

そうま音楽夢工房演奏会



そうま音楽夢工房第74回演奏会「Quartet DON KA」春の訪れコンサートは2月25日、市民会館で開催され、市民ら約139人が訪れました。

出演者は、郡山市出身のバイオリン奏者の菅野千怜さんら4人。

当日は、「四季」より「春」（ビバルディ作曲）などが演奏され、訪れた人たちは、弦楽四重奏によるみずみずしい音色に聴き入っていました。

全国大会での活躍を願う

ス。ポ。ー。ツ。大。会。出。場。報。告

スポーツ大会出場報告は2月28日、市役所で行われ、全国大会に出場する米澤舞選手（中二中2年）が立谷市長に報告しました。

米澤選手は、令和4年11月23日に開催された県大会で第3位の成績を収め、3月26日から京都府で開催される全国大会に出場。

報告を受けた立谷市長は米澤選手を激励し、奨励金を手渡しました。



世界の文化を感じる わくわくワールド フェスタ



わくわくワールドフェスタ2023は2月26日、総合福祉センターで開かれ、多くの市民が外国人などと交流し、さまざまな文化に触れました。会場には、フィリピン、タイ、中国、韓国、ルワンダなど世界各国のブースが立ち並び、国を紹介したパネル展示や各国の代表的な料理の販売などが行われたほか、塗り絵などを通して外国人と子どもたちが交流できるコーナーなどがあり、大いに盛り上がっていました。

昔の暮らしに触れる

中一 小郷土蔵見学学習

郷土蔵見学学習は3月1日、郷土蔵で開催され、中村第一小学校の3年生23人が参加しました。

児童らは、相馬の昔の暮らしの内容や現代までの生活の移り変わりの説明を受けた後、稲わらで縄を作る縄もじり作業に挑戦。

初めて縄をもじる動作に苦戦しながらも、稲わらを足しながら1本の縄を作り、自分の身長よりも長い縄をもじる児童も見られました。



住宅用火災警報器設置状況を調査

市女性消防隊

市女性消防隊は2月5日、3月4日の1カ月間、相馬消防署と協力し、住宅用火災警報器設置状況のアンケート調査を行いました。

女性消防隊は各家庭を訪問し、設置状況や経過年数などを聞き取ったほか、「住宅用火災警報器設置は、火災の早期発見につながります。必ず設置と点検を」と呼び掛け、相馬方部LPガス防災協議会から寄贈された火災予防啓発用品などを手渡しました。

岸田首相復興支援と子育て現場の視察 および子ども政策対話

岸田文雄首相は3月11日、LVMH子どもアート・メゾンを訪れ、市民との子ども政策対話を行いました。

子ども政策対話は、岸田首相が全国各地を訪れ国民の子育てに関する考えや現状を把握し、国として進める子どもの利益を第一に考える「子どもまんなか社会」の実現を目的に行われ、小倉将信内閣府特命担当大臣と渡辺由美子内閣官房子ども家庭庁設立準備室室長が同席。



食費と医療費の無償化や、東日本大震災で被災した子どもたちへの支援であるPTSD対策と相馬寺子屋についてなどを岸田首相に説明しました。次に岸田首相は、子どもたちの心のケアに取り組んでいる相馬フオロアーチチームのカウンセラー2人と意見交換を行ったほか、同施設内にある絵本閲覧室で絵本や紙芝居の読み聞かせを行っている親子らと触れ合い、終始笑顔で子どもらに話かけていました。



子ども政策対話には、子育て中の親と子ども、若者世代の女性、また子育ての経験を活かし孫の面倒を見ている祖父母らも参加しました。

参加者からは、気軽に子育てに関して相談できる場所と安心して出産できる環境の必要性や若者世代が考える結婚観などの意見が述べられました。

さまざま意見聞いた岸田首相は、「相馬市は全国的に見ても、地域を挙げて子育てをしようとしていると感じる。今後、子ども子育て政策を展開するためには周囲の理解や社会の意識を変えていくことも重要であると感じた」と総括しました。



震災の経験から命の大切さを学ぶ 磯部中防災教育講演会

磯部中学校防災教育講演会は3月8日、同中学校で開催され、生徒ら約40人が参加しました。

当日は、磯部地区に住む荒貞昭さん、阿部洋子さんと復興支援センターMIRAIの高橋あゆみさんを講師に迎え、「東日本大震災を経験して」と題した講演が行われました。参加した生徒らは、真剣な表情で荒さんたちの話を聞き、災害時の行動や命の大切さを学びました。



震災の教訓を忘れない 磯部中慰霊式

磯部中学校慰霊式は3月10日、同中学校で行われ、同校の生徒や同窓会、PTA代表などが参加しました。

磯部中学校内の慰霊碑前で黙とうをささげ、高瀬永志同校校長の式辞などの後、献花が行われました。

荒和花生徒会長（令和5年度）は「震災前の笑顔あふれる磯部地区を取り戻せるよう私たちががんばっていきたい」と復興への誓いを述べました。



震災から12年市東日本大震災追悼式



東日本大震災の発生から12年を迎えた3月11日、市民会館で、犠牲者を悼む市東日本大震災追悼式が開催されました。

市が主催し、遺族ら約190人が参加して震災の犠牲者を悼み黙とうをささげました。

式で、立谷市長は「震災の災禍と教訓、多くの命を守ってくれた英霊、お寄せいただいた心温まる支援を忘れることなく、後世に語り継いでいきます」と式辞を述べ、石橋浩人市議会議長が追悼の辞を述べました。

遺族を代表し岩崎汐音さんが震災からの12年間に回想し「見たことのない高さの津波が私たちを襲い、母、祖母、曾祖母が亡くなりました。

もっと家族との思い出を作りたかったのですが、いつまでも下を向かず、4人の分まで強く一歩ずつ進んでいこうと思います。これまでご支援いただいた方々へ感謝の気持ちが届くように、立派な大人になって恩返ししたいです」と犠牲になった御霊に語りかけました。



鎮魂を願う相馬市 手をつなぐ親の会



東日本大震災復興と鎮魂の集いは3月11日、伝承鎮魂祈念館前の海岸で行われ、地元住民ら約200人が木の葉の舟を流し、祈りをささげました。木の葉の舟は、泰山木（たいざんぼく）の葉に亡くなった人へのメッセージや、復興への思い、将来の夢などを記したもので、兵庫県の「森はな顕彰会」や県内外の小学校などから約11,000枚が集まりました。参加者は14時46分に黙とうした後、木の葉の舟を海に流しました。

復興への誓いを新たに磯部小防災の集い

磯部小学校防災の集いは3月10日、同小学校慰霊碑前で行われ、児童20人を含め学校関係者約40人が参加しました。永井崇同学校長の式辞などに続いて献花が行われ、石橋莉依菜さんが「東日本大震災のようなつらく悲しい出来事を二度と繰り返さないように、普段からの備えを学んでいきます。大好きな磯部を盛り上げていくため、一生懸命がんばりますので、私たちをこれからも見守っていてください」と復興への誓いを述べました。



YouTube 相馬市 チャンネルからのお知らせ



トピックスの一部は、市公式YouTubeチャンネルで動画を公開しています。下記のQRコードからアクセスし、ご覧ください。

▽山上小
サケ放流



▽わくわく
ワールド
フェスタ



▽磯部中
防災教育
講演会

